
編集後記

2025年は、ベトナム戦争終結50周年である。

本号でも特集を組んで論文、コラム、書評が掲載されているので、藤本巻頭文と共に是非読んで欲しい。50年前の1975年と言えば、筆者は当時高校生だったが、ベトナム戦争の終結は、新聞やテレビでも大々的に報道されていた。特に印象深い出来事は、4月30日戦争終結時の北ベトナム軍の戦車による南ベトナム大統領官邸への突入、多くのボートピープル難民のベトナム脱出などであり、当時ベトナム戦争は米国が敗退した戦争であることを強く実感した。約40年後ベトナムを訪問した時もホー・チ・ミン市の戦争証跡博物館で米国の枯葉剤散布の恐ろしい行為を再確認した。

ベトナム戦争後数年を経てから、筆者はカンボジアの共産党ポルポト政権(クメール・ルージュ)による圧政と大量虐殺の事実を知り衝撃を受け、カンボジアに関わる大きな転機となった。藤本巻頭文では、ベトナム戦争終結50年を経た現在、「ベトナム戦争の忘却」と世界で進む軍事化の危機感を述べているが、ロシア・ウクライナ戦争とイスラエルによるガザ攻撃の事例を見ても、「ベトナム戦争の教訓」が世界の平和に生かされていないことを痛感する。

特集の他、スリランカの Sanjeewa, P. D. P. 投稿論文は、スリランカの零細企業(ME)の収益と存続にいくつかの要因がどのように影響しているのかを検証するために、オーナー経営者(OM)への量的インタビューと選ばれたOMに質的なインタビューを行っている。スリランカのMEの収益性について8つの仮説を立て、その内の年齢と負債が収益性に影響することを実証している点は、スリランカの経済やMEにとっても貴重な分析となるであろう。

最後に、今回の本誌の編集作業は、山中達也理事(編集担当)により行ったことを付記する。

(2025年7月25日 編集長 重田康博)
